

図6．各断層モデルのすべり分布から計算された津波初期波形  
 左：山中・菊地モデル、中：谷岡モデル、右：気象研モデル

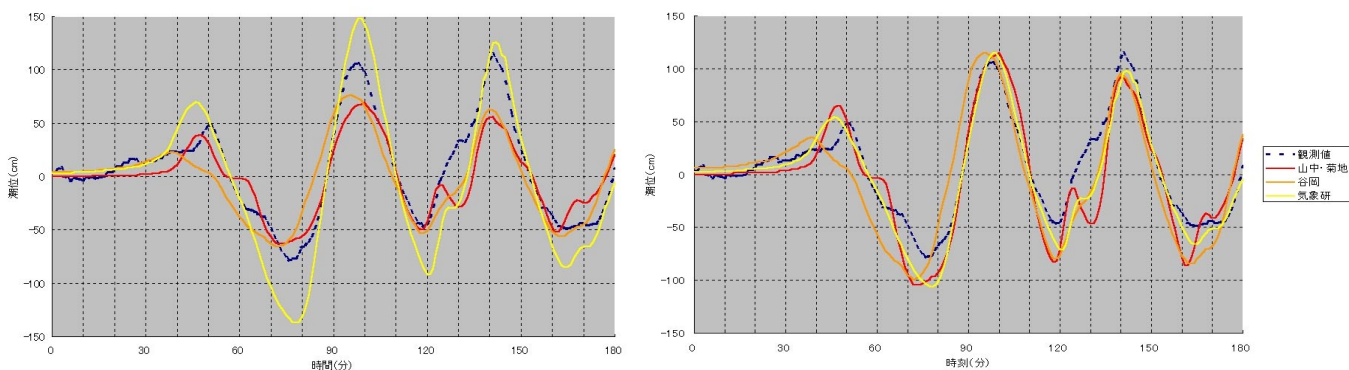


図7．厚岸町の潮位観測波形と各モデルによる計算波形

左図は計算値をそのままプロットしたもの。右図は計算値を観測値の最大値で正規化してある。正規化の係数はそれぞれ、山中・菊地モデル：1.67、谷岡モデル：1.51、気象研モデル：0.77。

モデル	最大すべり量	$M_0$	$M_w$
山中・菊地	9.7m	$1.7 \times 10^{21}$ Nm	8.1
谷岡	6.5m	$1.5 \times 10^{21}$ Nm	8.1
気象研	5.4m	$1.4 \times 10^{21}$ Nm	8.0

表6．すべり量調整後の各断層モデルの諸元

すべり量調整の係数は図7の正規化係数と同じ。走向等は表5と同じ。

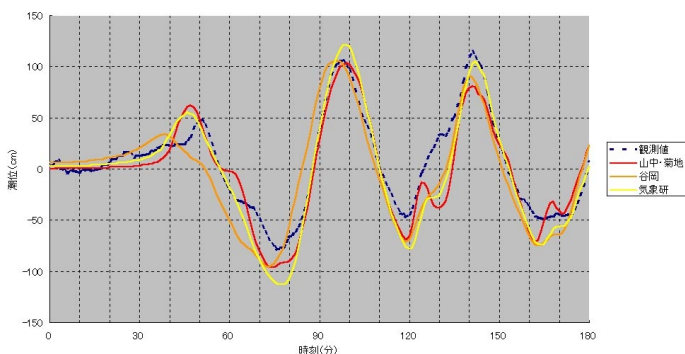


図8．厚岸町の潮位観測波形とすべり量調整後の各モデルによる計算波形

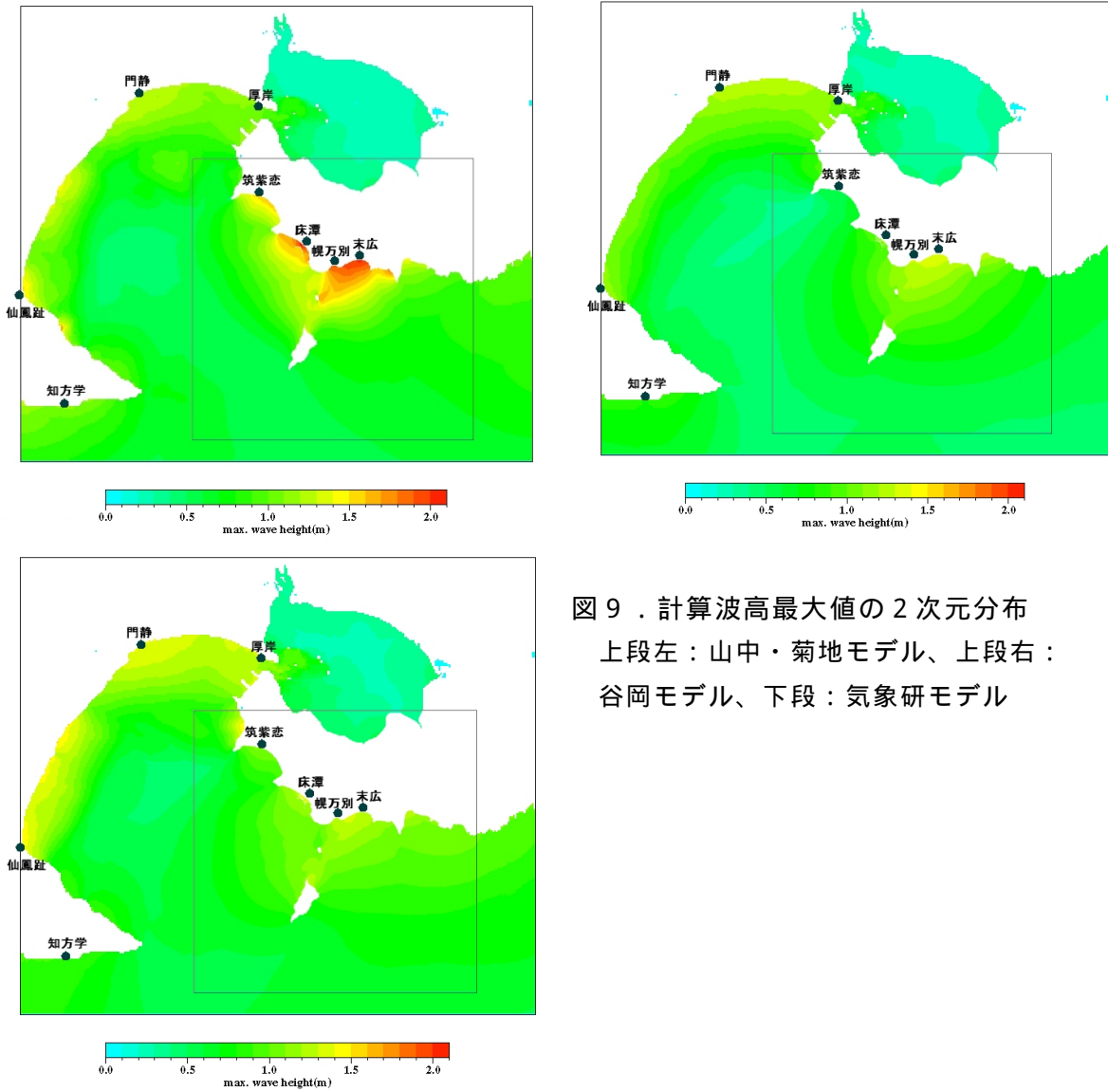


図9．計算波高最大値の2次元分布  
 上段左：山中・菊地モデル、上段右：  
 谷岡モデル、下段：気象研モデル

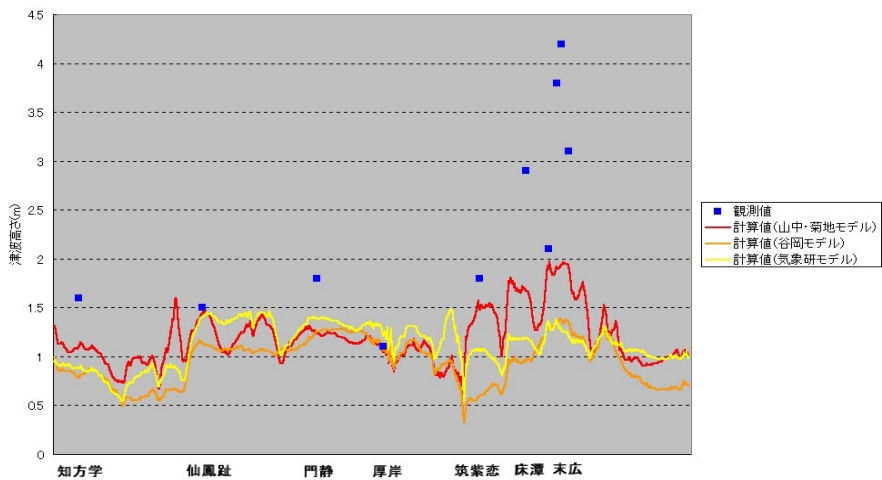


図10．観測波高値と計算波高最大値の海岸線に沿った分布の比較  
 海岸線は図9の範囲で厚岸湖、島を除いた範囲。